

ご利用者の自立支援と 介護労働者の負担軽減(腰痛予防)を 考慮したトイレ

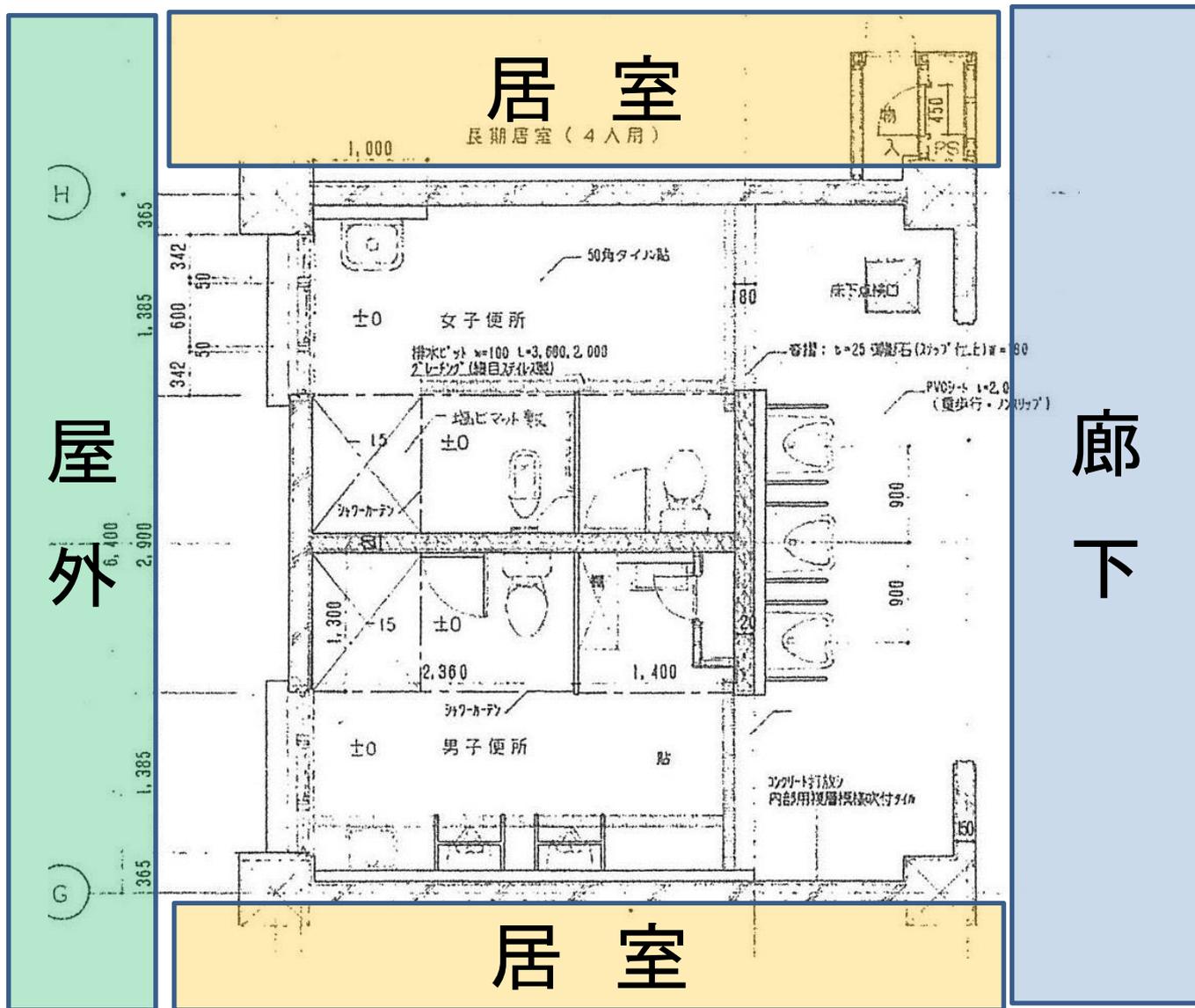
特別養護老人ホームきらら(H25年12月)

これまで使用していたトイレ

- ・男女別
→ご利用者は
女性が多い
- ・タイル床
・排水溝
→臭いが廊下にもれやすい
- ・トイレブース狭い
→介助しにくい
- ・便器の向きが同じ
→麻痺側の関係

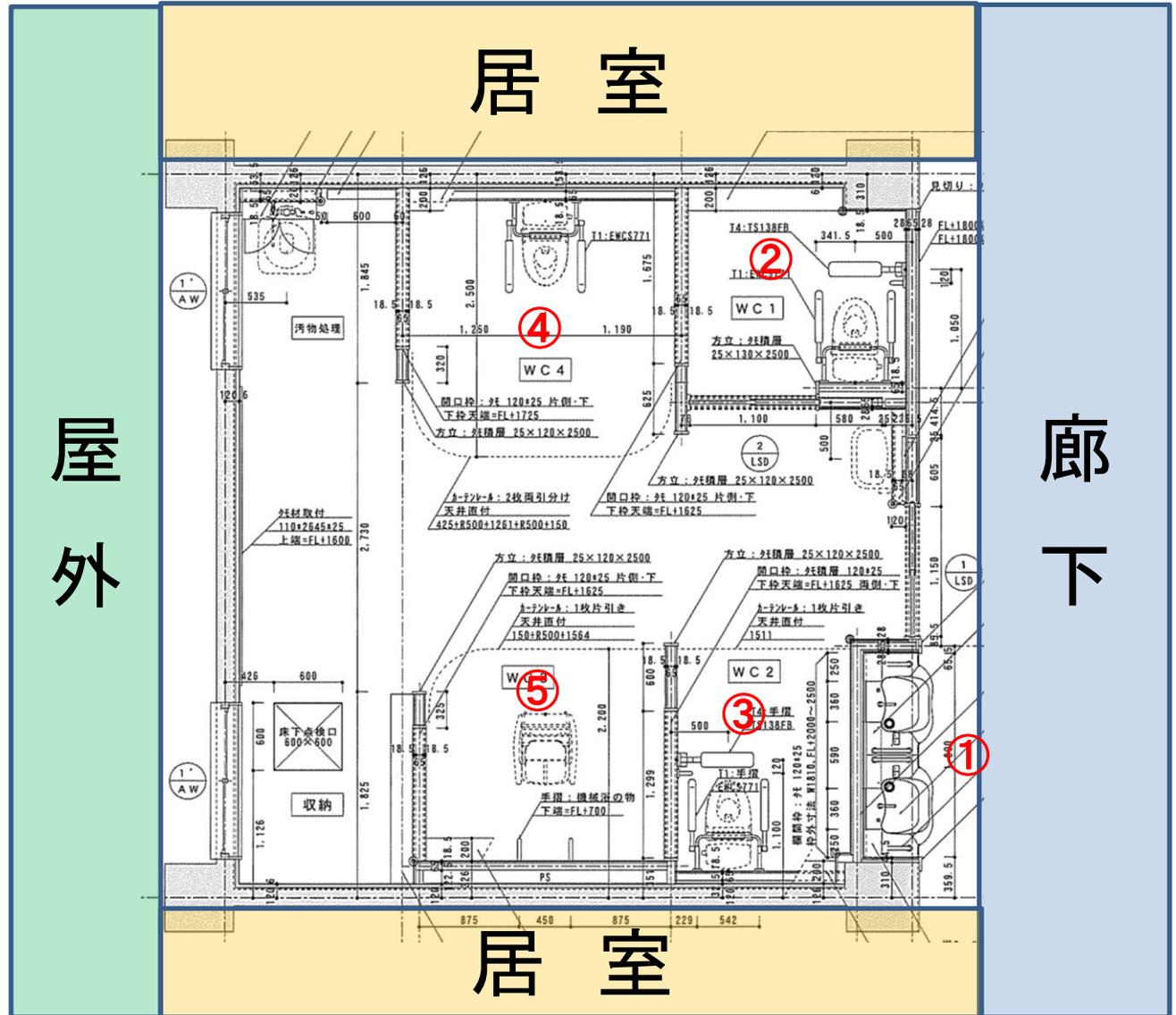


20年前は良かったかも？
時が流れ、今では使
いにくいトイレに…



改修したトイレ

- ・男女兼用
- ・排水溝なし
- ・シート貼り床
- ・保有能力を活かせる
手すりとスペース
- ・スタンディングマシーン
使用可能スペース



①

もう少しトラップ高さとお行きを考慮する必要がありました

水栓位置が奥だと手が届きにくいので少し手前に移動させました

普段は扉が閉まっているのでご用の方にはナースコールを押して頂きます

身長差、車いす高さを考慮して高さを変えてあります

カランに取っ手をつけました
上下ではなく左右に回すタイプです



②



廊下に面した手洗いの湯温はここで調整します。

②

複雑なリモコンは職員が扱う位置に設置しました
ご利用者が使用するかんたんリモコンは別に設置してあります

便器向きを変えてあります。
入り口からストレートに入ること、体を反転させる動作を省きます。

②

すべてのトイレブースに言えることですが“手すり、”や“リモコン、”“紙巻器、”の位置設定は難しいです。互いに干渉してしまうので・・・
この場合は、縦手すりを壁からもう少し離す(台座をつけて高さを出す)必要がありました。

この便器のみ低リップタイプです。
歩行便座を使い高さを増して使うこともあります。



③

隣のブースが覗けない高さに棚を設けています。

仮に移動可能な縦手すりを設置してあります。ご利用者の状態に合わせて使用します。

前かがみの姿勢を取りやすくし転落も予防する手すりのものを設置したかったのですが・・・

この便器は左右どちらからでも介助ができるようにブースの中央に設置しました。

②

ナースコールは“握りタイプ”を採用しました。普段はシャワーフックを応用して掛けることにしました。

④

後方から差し込みやすいようにブレーキ付きキャスターが取り付けられています。

④

前方に手すりがあれば立ち上がることができるご利用者のトイレブースです。
立ち上がった後、後方からポータブルトイレを差し込みます。







台車などの備品を保管するスペースです。









デイサービスのトイレも改修しましたが、先に行ったホームトイレ改修の反省点を活かして、手すりの壁からの出幅などが改良されています。

環境を整えることで、ご利用者の保有能力を活かすことや介護負担が軽減することが体験出来ました。